

留学生が過ごしやすい環境

3年1組 8番 木村杏寿

3年1組 14番 竹株 凜

3年2組 7番 岡本光姫

Keyword: 「多文化共生」「異文化理解」「文化」「留学生」「日本人」「ハイコンテクスト」「ローコンテクスト」

1. はじめに

私たちは「留学生が過ごしやすい環境」というテーマで探究を進めてきた。このテーマに取り組むに至ったきっかけは、私たち一人一人が日本の文化に基づく日常生活の中で、対人関係やコミュニケーションにおいて違和感を感じていたことだ。そこから、国籍や習慣、言語など多くのことが異なる留学生にとって日本の文化的特徴である集団主義やハイコンテクスト文化が、生きづらさや疎外感を与える原因の一つなのではないかと考えた。特に、集団主義の中で「周囲との調和」が強調される日本社会では、個々人が異なる背景を持つことへの受け入れが疎く、留学生にとっては孤立を招きやすい環境であると考えた。また、日本のハイコンテクスト文化では、暗黙の了解や言外の意味を読み取る能力が重視されるため、言語的・文化的背景の異なる留学生との大きな障壁となると予想した。

私たち一人一人がこうした文化的な生きづらさを感じたことから、留学することでそれが解消されるのではないかと考えた時期があった。しかし、気軽に留学することはできない。そのため、現実的な選択として、身近にいる留学生と交流し、彼らがどのような困難を感じているのかを学ぶことが有効であると考えた。

留学生の視点を知り、彼らが過ごしやすい環境をどのように構築できるかを探ることで、異文化理解を深め、留学生が過ごしやすくなるだけでなく、日本人の私たちも異文化から学び、生きやすくなるのではないだろうか。

2. 序論



文化は変えることが難しい。それに加えて良い悪いもない。ただ知って、受け入れて、認める。そうすることで共存する。そのための「知る」という機会を与えるのが私たちの活動してきたことだ。

私たちは、本気で「留学生が過ごしやすい環境」を作ってから卒業したいと考えたため、単なる調べ学習に留まらず、具体的な行動に重点を置くことにした。

近年、日本では在留外国人や訪日外国人が増加しており、社会の中で多様な文化が混在している。令和5年末時点の在留外国人数は

341万992人と、前年末から33万5,779人（10.9%）増加し、過去最高を更新したと、出入国在留管理庁は発表している。このように、日本では国籍や文化の異なる人々との共生がますます重要な課題となっている。

しかし、私たちが国際高校で過ごす中で感じたのは、留学生との交流が十分ではないという現実だ。クラスに留学生が加わっても、彼らが国際高校生のコミュニティに完全に馴染んでいないと感じる場面が多く、過ごしにくさを抱えているのではないかと考えた。特に、過

去に1人の留学生が途中帰国してしまった事例は、その問題を象徴しているように感じた。これらの出来事を通して、私たちは現状を改善するために、実際に行動を取る必要性を強く感じた。また、このような文化や人種の違いによって生じる問題は、お互いの文化に対する「知識不足」が主な要因であると考えている。急速に英語力を上げたり、積極的な性格を身につけることは難しい。しかし、文化の違いに対する理解を深めることで、言語や文化の異なる留学生と国際高校生が心地よく過ごせる環境をつくることは出来ると考える。また、そこからお互いに言語や文化を教え合えるようになるかも知れない。

そこで私たちは、まず積極性に関するアンケート、国際高校生がどれほど留学生について理解しているかを把握するためのアンケート、そして留学生にインタビューを行った。これにより、具体的な問題点と改善点を明らかにし、より良い共生環境の実現に向けた第一歩を踏み出した。

- 調査方法

- ・ 「積極性に関するアンケート」
対象:国際高校3期生104名 期間:2024/2/13～(約2週間)
- ・ 「本校生はどれだけ留学生のことを知っているのかアンケート」
対象:国際中学・高等学校全体120名 期間2024/7/25～(約3週間)
- ・ 留学生、留学生担当の先生にインタビュー
- ・ SNS及び文献調査

- 取り組み

- ・ 探究活動内容交流会での発表
- ・ 留学生についてのポスター制作

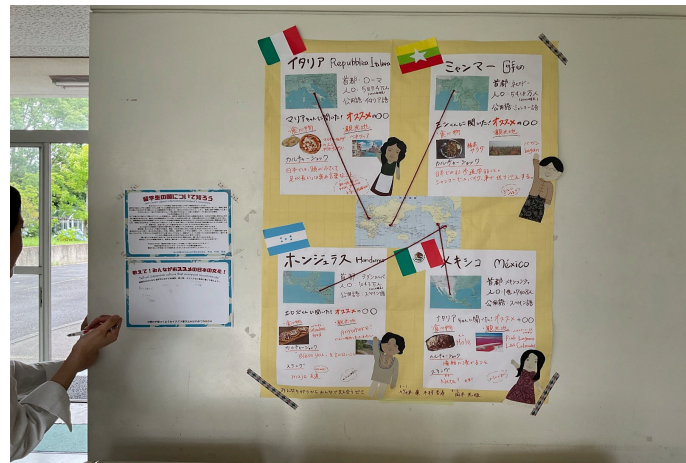
3. 本論

留学生が過ごしやすい環境をつくるにあたって、私たちが感じた日本文化の閉塞感は主観的な感覚であり、他の人々は異なる見方をしているのかもしれない可能性を考えた。実際は、日本の生徒たちも積極的に意見を述べたり、行動を起こしているのかもしれない。そこで、論文を書くにあたり、私たちの感じている閉塞感や同調行動に対する主観的な見解を補強するために、積極性に関するアンケートを実施することにした。「積極性に関するアンケート」の結果によると、①「自分には積極性があると思うか」という問いに対して「あると思う」と答えた人が68.3%、「ないと思う」と答えた人が31.7%だった。②「積極的になれなかったことが原因でチャンスを逃した経験があるか」という問いに76%の人が「ある」、24%の人が「ない」と答えた。②の例として、「留学」や「友達づくり」、「授業中の発言」や「恋愛」、「生徒会」などが挙げられた。そして、③「あなたは留学生と積極的に話しますか」という問いに「話す」と答えた人が64.4%、「話さない」と答えた人が35.6%であった。話さない理由として、「緊張するから」や「話しかけにくい機会がないから」、「英語に自信がない、言葉が通じるか不安だから」といった理由があった。③のアンケートの結果から、本校生の積極性はどちらかというと高く、日本人だからといって積極性が低い傾向がある訳ではないことが明らかになった。このことは結論で述べることに繋がる。

「積極性に関するアンケート」に引き続き、私たちは留学生に関する意識調査を実施した。そのアンケートの中で、「留学生に興味があるか」という問いに「はい」と答えた人は74.2%、「いいえ」と答えた人は25.8%。「留学生の国の文化に興味があるか」という問いに「はい」と答えた人87.5%、「いいえ」と答えた人12.5%と半数を超える人が留学生の国の文化に興味があると答えていたのに対して、「留学生の文化を実際に調べた事はあるか」という質問に対しては62.5%の人が、「留学生と積極的に話すか」という質問に対しては

64.4%の人が「いいえ」と答え、「現在、国際高校に何人の留学生が来ているか知っていますか？」という問いに「知らない」と答えた人が75.8%であった。

アンケートの結果から、本校生は留学生や文化に興味はあるが、知る機会がなく、知識が浅いことが分かった。また、それが原因で本校生と留学生のすれ違いが起こったり、なかなか行動に移せない本校生が多いことがわかった。ここから、改めて本校生の知識不足が問題だと認識した。これらは留学生と関わる際の障壁になる。異文化に対する理解を深めることで、誤解を防ぎ、円滑な交流を促進する。私たちにできることは「知る」きっかけを提供することだと考えた。私たちは留学生が過ごしやすい環境＝留学生と国際生の壁がない環境と定義する。この壁を無くすためには、やはり、第一に知ること。第二に理解して受け入れること。第三に実際に関わること。が肝要である。留学生との壁をなくす第一歩として、留学生について多くの人に楽しく正確に知ってもらうために、ポスターを作成することにした。



留学生の国について知ろう
Let's learn about international student's countries.

私たちのファミリーの目標は「留学生が過ごしやすい環境を作る」ことです。留学生が過ごしやすい環境ってどんな環境？どんな問題があるのだろう？という小さな疑問から発見が生まれました。実際に留学生に聞いて自分の考えが正しいかどうかは簡単に確かめられませんが、自分にはないものごと、しかし、誰かに指導で聞いてしまった方がいいこと、私たちが何が足りない(特に気づきにくい)と感じて調べたいことを選んでみるのは大事。

では何が問題なのだろう？
そこで皆さんに協力して頂いたアンケートの結果から、留学生や留学生の文化には興味があるが、なかなか行動に移せない方が多い事が分かりました。確かに今の国際高校はプラスにしか留学生は捉えられず、交流の場が少ないことも問題だと分かりました。国際高校生30年の勉強したことでローカルな視点で物事を考え方が付いているのかもしれないが中には問題があります。多様な文化があることを知らないで勝手に決めつけてしまう日本人が多いです。また私たちの生活スタイルの幅に比べて留学生の生活スタイルは多岐にわたります。知識不足、交流不足によって誤解が生まれしめにもつながるかも知れません。

そこで私たち国際学生と留学生の文化を互いに理解し合う機会を作ることが目的として考えています！
壁を越えることにより、関わりが深え、言語、文化を自然にお互いに教え合えるのではないのでしょうか。
留学生のこともよく知り、互いの文化を楽しく共有、愛護し、留学生としてだけでなく国際生、いや、一人の人間として関係を築ける学校にしたいです。ですからこれら留学生にだけ伝えなくてもいい、国際生も一人の人間として文化交流の機会を、遠くまで通しやすい環境が出来上がるのではないかと考えています。

第一歩としてまずはこのポスターが皆さんの文化に興味を持ち、調べようきっかけになること、留学生についての理解が深まること、留学生と関わりやすい環境を作れる環境を築いてくれる実家です！

ちなみにですが、留学生の皆さんはとっても楽しく話しやすかったですよ！
英語が苦手からという子！ジェスチャーも立派な言語です！
漢字を出して字を渡ったり英訳を渡ったりしてあげてはいかがでしょうか？！

みんな違ってもみんな違って愛を合せて 木村 竹株 岡本

教えて！みんながオススメの日本の文化！
Tell us! Japanese culture that everyone recommends!

国際生のみならず留学生にオススメの場所、食べ物、スラングなどを自由に書いて教えてよう！

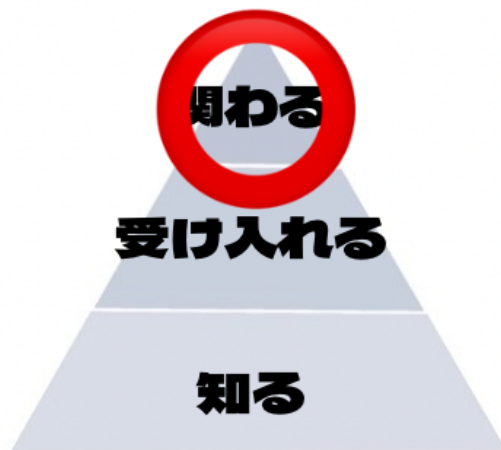
※誰かが借つくようなイラスト書き込みはやめてね！

ここでは、①留学生の出身国について直接インタビューした内容（国名、首都、人口、公用語、簡単に使えるスラング、カルチャーショック、おすすめの食べ物、観光地等）②国旗、地図、③「留学生の国について知ろう」という題名で、私たちの活動の意図についての説明、④「教えて！みんながオススメの日本の文化！」という題名の参加型の掲示をした。作成する際、私たちも留学生とコミュニケーションを取ること、一方的に教えてもらうだけにならないようにすること、私たちの思いを伝えることを意識した。また、日本と留学生の国との違いやスラングなど堅苦しくない内容にしたり、一緒に描いた似顔絵を貼って興味を引くようなデザインを心掛けた。このポスターを貼った数週間後、もう一度留学生に関する意識調査をしたところ、以前よりも知識が増えたといってくれる人が大半だった。私たちは、これらの活動を通して国際高校の異文化理解度を向上させることができたと自負している。

4. 結論

グローバル化が進む世界、日本、社会全体、そして学校。異文化間のコミュニケーションで、相手の文化的背景を理解することは、誤解を減らし相手のことを理解する手掛かりになる。そのため、お互いに過ごしやすくするために肝要であるといえる。しかし、異文化理解を進める上で、文化的ステレオタイプ(文化の様式を固定的に決めること)に囚われず、個人の特性を尊重することも非常に肝要だ。例えば、本論の前半で述べたように、「日本人は控えめで積極性がない」というステレオタイプがあるが、それぞれの日本人が持つ特性は異なり、一概には言えないことがアンケート結果からも分かった。

私たちの取り組みは、多文化共生社会を実現するためには、まず、「知る」ことが大切であることを示した。そして、最終的には異文化を前提にしつつ、常に「相手はその文化の代表者ではなく、個人としての特性をもっている」という視点を持ちながら実際に「関わって」、その人個人を尊重することで、真の多文化共生社会が築けると考える。



5. おわりに

私たちはこれまで、多文化共生社会について、最も身近な学校という場に焦点を当て、探究活動を進めてきた。高校での探究は一つの節目を迎えるが、メンバーが進む各々の進路先で、この探究を通して得た学びを活かしていきたい。例えば、外国人だけでなく日本人同士でも、偏見や先入観を持つことはある。しかし、一旦立ち止まって考え、実際に関わることで理解を深める姿勢を忘れず、身近な環境から少しずつ多文化共生社会の実現に向けて行動していきたい。

6. 参考文献・出典

英治出版株式会社「異文化理解力」

「出入国在留管理庁」https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00036.html

<https://www.shigajinken.or.jp/pdf/20230116/q4-1.pdf>

▶ 人権啓発ビデオ 「外国人と人権 ～違いを認め、共に生きる～」 (2/5) 【ドラマ...